

聖母被昇天学院中・高等学校

「既読スルー」って悪いこと？～友達から返信がないときのことを考えよう

授業実践の方法

- ・対象：高校2年生A組（30名）
- ・科目：情報C
- ・場所：メディアルーム
- ・指導者：岡本弘之教諭
- ・実施時期：2013年秋



岡本弘之教諭

実践報告と今後の課題

■ 『既読スルー』って悪いこと？～友達から返信がないときのことを考えよう』の指導案

SNSの「既読」機能は返信しなくても、読んだことが相手に伝わる便利な機能です。しかし最近「読んだのに返信をしない」＝「既読スルー」の問題が浮かび上がってきています。

今回の授業では、この「既読スルー」の問題を取り上げ、知識を教えこむのではなく、話し合いの中で「相手にいろいろな状況がある」ことに気づかせる構成にしました。授業の入り口は「既読スルー」問題ですが、授業のポイントは「コミュニケーションで相手の状況を想像する」ことの大切さを教えることにおおいています。

■ 授業の様子

授業の最初に、実際のスマートフォンの画面に似た女子高生3人のやり取りを使い、「なぜ既読したのに返信しなかった（できなかった）のか」を考えさせてみました。理由を多く考えるように一人3つ以上付箋に書くこととし、グループでまとめさせました。ここでは「いろいろな理由がある」と気付かせることがポイントです。

次に「既読スルーは悪いことか？」「自分はどんな場合に返信を返さないか？」「どんな場合には返信を返してほしいか？」などいくつかのテーマで話し合い、その結果を1分程度で発表させました。

生徒からは「既読スルーは悪いことではない、相手にも事情がある」という当たり前の答えが出たのですが、「既読スルーで怒るなら、返信してと書けばいい」という意見もみられました。ネット上ではどうしても伝わりにくいものがあり、「返信して」とことばではっきり言うことによってトラブルを防ぐことができます。生徒のコミュニケーション力の高さに感心しました。

■生徒の皆さんが学んだこと ～授業後のアンケートより～

- ・今まで返信が来なかったら「怒っているんじゃないかな」と思ったりしていましたが、(決めつけずに)人の気持ちを考えたいと思いました
- ・相手を思いやるということをしなければいけないと思った。全てを自分中心にかんがえてはいけない
- ・既読スルーでも相手のことを考えて、冷静に対応していかなければならない

■今後の課題

新聞で「大学生が既読疲れ」という記事を目にしました。既読がつくがゆえに「返事をしなければならぬ」という強迫観念にかられるといった内容です。しかし某 SNS 会社の方のお話を聞くと「既読は返信しなくとも相手に届いたことを伝えるためにつけた機能」であり、「返信しなくてもよいため既読」機能ということが分かりました。「既読スルー」への意識は、このような話を聞くことによっても変わると思います。

ネット上のコミュニケーションは顔が見えないからこそ、相手の状況を考える想像力が必要です。また、生徒が指摘していたように、気持ちをあえて言葉にして、わかりやすくコミュニケーションする力が求められています。今後、本教材パッケージを使って、ネットワークの問題だけではなく、生徒がコミュニケーションを考えることができる授業実践が広がっていくことを期待しています。